

## 第6回志津川湾保全・活用計画策定委員会 議事録

日時：2021年12月1日(水)16:00～17:00

会場：南三陸町自然環境活用センター

出席者：阿部富士夫委員長、工藤真弓委員、佐藤太一委員、菅原きえ委員、阿部民子委員、大沼ほのか委員、阿部将己委員、高橋直哉委員、鈴木卓也委員、鈴木孝男委員、阿部拓三委員

事務局：及川主任、鈴木研究員、太齋（サステナビリティセンター）

及川主任より挨拶

阿部委員長挨拶：多くの委員の出席感謝する。暦の上では今日から師走。慌ただししい時間が続くと思うが、体には気をつけて取り組んで頂きたい。後ほど町長に提言書の提出の話があると思うが、この提言書、今日が最終の確認の会議になるのでよろしく願いたい。

### □議事

#### 1 志津川湾保全・活用計画提言案について

事務局：前回皆様のご意見を反映したものがお手元に。この中身を最初から確認していきながら、最終的な提言案としてまとめたい。表紙の写真や目次を入れた。前回と変わったところ、あるいは直接意見を個別にいただいたところは訂正して赤字で示した。一つ相談は、表1の志津川湾の評価のところ、阿部（拓）委員からここ結構最近の情報を入れた案もいただいたが、採択当時採択当時の情報と最近の情報をどうだすのかは悩みどころ。

- ・ここで出すのは採択当時の基準をそのまま同じ文言でやった方がいい。その下に採択後の状況を括弧で付け加えるのが一番いいのでは。これはもう採択基準で選ばれたときのものだから、それはそのまま。
- ・追加の情報があって拡張に結びつけるとかできる。
- ・戸倉海岸は折立海岸が正確では。
- ・重要湿地500の中には、戸倉海岸と書いてる。だから戸倉海岸の後ろに括弧付きでやった方がいい。見直しのときに、志津川湾のところに多くの干潟群が理由に付け加えられたというのは大変意味がある。原文ではそうなっているので、後ろに括弧して注釈をつけた方がいい。

事務局：選考基準については解説を書いたがどうか。

- ・基準7の解説が切れている。種のことを言います。
- ・基準1の解説のところの生物地理区は自分たちが考える狭いエリアじゃない。

世界地図の上で、生き物の分布を区別して示した生物地理地区というのがあって、その中の代表的な場所を選んでいるという説明が少し入れればわかりやすい。

- ・定期的に 20,000 羽以上の水鳥を支えると左側にあるが、説明では水沼 18,000 羽だと整合性がとれない。
- ・伊豆沼は、ガン含めたら 18,000 羽ということはない。
- ・ガンだけで 10 万羽ちかいのでは。
- ・基準 7 の魚類は魚介類ではないか？前にもコメントしたが魚だけじゃなく軟体類・甲殻類全部入る。

事務局：原文はそうになっているがこれを何に合わせたらよいか

- ・環境省のページの下に注で魚・エビ・カニ・貝類と書いてある。
- ・魚類のところに括弧して魚・エビ・カニ・貝類とつけてもいい。

事務局：ではかっこ書きを挿入する。

事務局：自然環境・社会環境の部分はあまりいじっていない。歴史の部分は鈴木（卓）委員に協力いただいた。

- ・後半の本吉宿は一般の方に分からないので、カッコで五日町・十日町といれてる。

事務局：かっこ書きを挿入する。

- ・期間のところで、例えば 2027 年の評価修正があるがその脇にも施策実施と書く。モニタリングと評価修正が同じなのでモニタリングは消して、評価修正と施策の実施をするということで 2024 年と同様に。

事務局：承知した。2027 年、2030 年も修正する。コラムについても鈴木（卓）委員からいただいたものを少し改変したがどうか。

- ・山の最後のまとめのところがしっくりこない。「このような多様な意味が込められています。」くらいで。

事務局：修正する。この後の具体的な達成項目、内容、評価指標はどうか。

- ・ヨシ原はカタカナで。
- ・2) のアマモ場と海藻藻場が、1) では海草藻場と海藻藻場と書いてあるので、どちらかに統一を。

事務局：海草藻場に統一する。

- ・ナチュラルリストも用語解説に入れた方がよい。
- ・全体の用語説明という位置付けか。

事務局：脚注に書こうと思ったが内容がいっぱいになる。

- ・ここだけ読んでも理解するセクションになる。
- ・何ページに出てくるか入れた方がよい。
- ・FSC のところは FSC 認証に。
- ・塩性湿地のイメージは干潟の後背地に発達するヨシ原などの植生。ヨシは淡水

にも生える。

- ・失われたのは塩性湿地だけではない。そもそも塩性湿地はこの町にはほとんど無かった。
- ・FSCにRマークがあるものとなないものがある。つけた方がいい。
- ・Rはなにをあらわす？

事務局：言葉自体が登録商標。

- ・水鳥の生息環境の部分。ここに入っているのは冬の渡り鳥なので、他の保護鳥も含める。例えば1年中いるウミネコ、オオセグロカモメも保護鳥になっている。あるいは町で天然記念物に指定しているイソヒヨドリなど、陸鳥も含める。「生息できる環境」が重要。
- ・オオセグロカモメは牡鹿半島あたりが繁殖の南限。

事務局：普通種の評価はなにが適切か？

- ・繁殖できる場所とか。
- ・出現種数でよいかもしいない。
- ・32ページの上の方、陸上養殖が盛んになるはこれでいいか？陸上養殖のみ盛んになるというのはどうなのか。
- ・陸上養殖はエネルギーもつかうし、お金もかかる。
- ・状況に合わせて、陸上養殖も含めた多様な養殖が試みられているとか。方法だったり、養殖の対象物だったあり、いろいろチャレンジするという。
- ・32Pの一番下の儲かる産業も表現としてどうか。儲かれば何でもいい訳はなく持続可能な産業があるのが重要。
- ・18Pのクワガタ類で南方種の出現が、となっているところを昆虫類に変更。南方種の出現はカメムシやハチなど昆虫類全般で見られている。カブトムシも、だいたい小型化がみられる。
- ・人口増加でギンザケの餌問題が起こるとは。人口増加だと、人の食べ物の取り合いとなるけど、ギンザケの餌問題に特化した方がよい。
- ・ギンザケの餌のドライペレットは魚粉がおもだけど、それが資源不足でだんだん獲れなくなる。中国に買いまける。

事務局：資源不足で餌の価格が高騰しているとする。

- ・一番最初に目次を入れるとすると、表紙と目次にはページを振らない。後ろに奥付は？何月何日作成があった方がいい。
- ・町長に提言した内容について、当然審議があると思うが、提言に沿った取り組みは、具体的にはどんなイメージ？

事務局：当然予算がないとできないですので、予算を取ってやっていくことになす。パブリックコメントをするのであれば、そこでまた意見を反映させることも必要になってくる。

阿部委員長：そうすると町として計画に入れるかどうかは課題となる？

事務局：それは既定路線で当然入れるものと認識している。そうでないと、この会議の意味がない。しっかり実効性のある計画にすべく、一緒に頑張ろうという話を提出の際にさせていただければありがたい。